

DUP-10/10B

ヤマハ電子アップライトピアノ

取扱説明書



 **YAMAHA**

安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

⚠ 記号は、**危険**、**警告**または**注意**を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

🚫 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制**または**指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※ お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

- 🚫 本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
- 🚫 浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。
- 🔌 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。
- ⚠ 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。
- 🔌 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の恐れがあります。
- ⚠ 電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。
感電やショート of の恐れがあります。
- 🔌 本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- 🚫 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 🚫 本機を壁につけて設置するときは、本機背面の電源プラグ部に無理な力がかからないように、壁との間に少しすき間をあけてください。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⚠ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。
- 🚫 タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

- ❗ 長期間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。
- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
- ❗ 本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ❗ 本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。
- ❗ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。
- ❗ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ❗ 地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ 外装をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学そうきんなどは絶対に使用しない。また、本機の上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
外装や鍵盤が変色・変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損したり、お客様がケガをしたりする原因になります。

- ⊘ 大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がケガをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がケガをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がケガをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。
ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハ電子アップライトピアノをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本機を正しくお使いいただくため、お使いの前に本書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

本機の特長

◆アップライトピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションが働きハンマーが動くアコースティックピアノと同様の機構により、アップライトピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。

◆キーセンサーが鍵盤の微妙な動きを検出

鍵盤の微妙な動きを、光ファイバー方式のキーセンサーが忠実に検出します。タッチの微妙なニュアンスを、きめ細かくキャッチします。

◆リアルなピアノ音色

色彩感あふれる生の音をステレオサンプリングしたAWM2音源にデジタルフィルター処理を施すことにより、緻密な音色を実現。また大容量メモリーの採用によりダンパーの共鳴効果が得られるなど、さらにリアルなピアノ音を表現できるようになりました。ピアノ独特の鋭い立ち上がりと美しい余韻、打鍵の強弱による音色の変化など、表情豊かなピアノ音色をお楽しみください。

◆音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音量を自由に調節できます。^{*1}
また、ヘッドフォンを使用すれば、周囲のかたに気がねなく演奏できます。ヘッドフォンは2本まで接続でき、ヘッドフォン使用時にもレッスンや連弾ができます。

◆軽量・コンパクト設計

重量100kg、高さ102cmの軽量・コンパクト設計です。

^{*1} 音量ツマミを最小にしても、鍵盤をたたく音は消せません。

目次

安全上のご注意	2
本機の特長	4
付属品	5
各部の名前	6
ペダルのはたらき	7
基本編	
ご使用前の準備	
鍵盤蓋について	8
譜面板について	8
演奏する	9
ヘッドフォンを使う場合	9

応用編

リバーブをかける	
リバーブの深さを調節する	10
リバーブの種類を切り替える	11
ピッチを合わせる	
ピッチを切り替える	12
ピッチを微調整する	12
同時発音数を切り替える	14
他の機器と接続する	15
他のMIDI機器と接続する	16

資料編

試聴曲の再生	18
お手入れ	19
音のエチケット	19
お引越しのときには	20
おもな仕様	20
おかしいなと思ったら	21
MIDIインプリメンテーションチャート	22
オプションのご案内と接続時のご注意	23
保証とアフターサービス	裏表紙

付属品 (お確かめください)

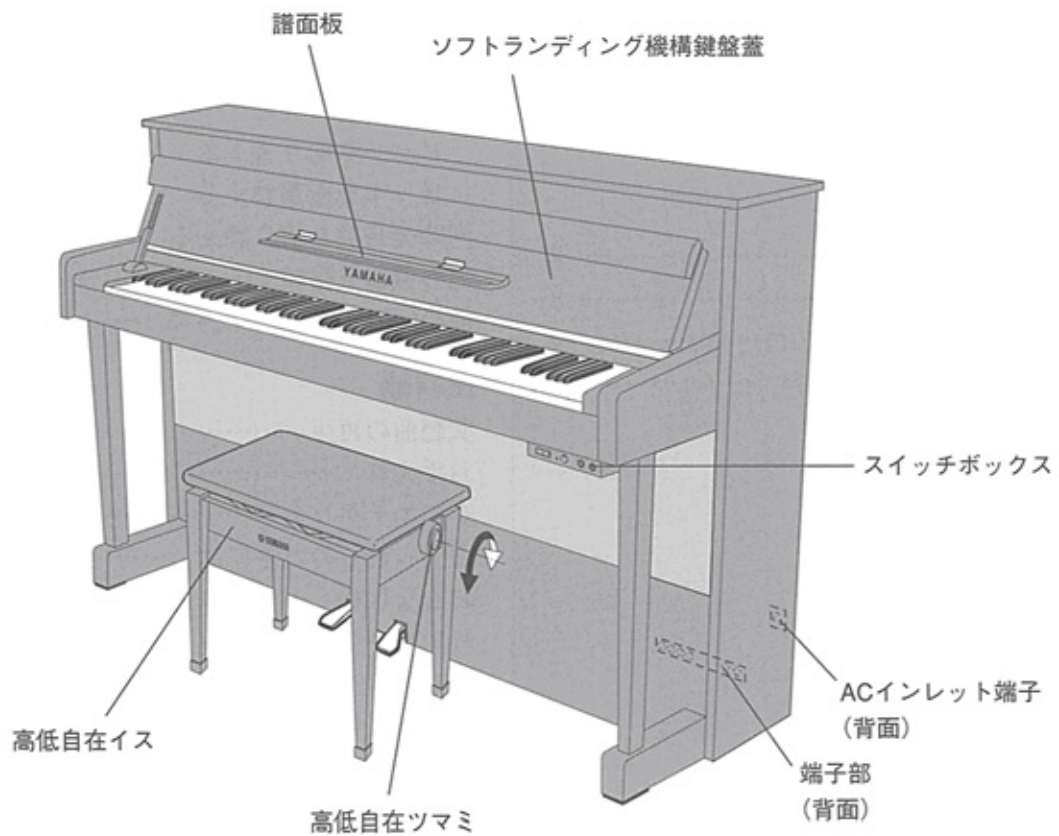
納入時の付属品は次のとおりです。ご使用になる前にお確かめください。

◆取扱説明書 ◆保証書 ◆ご愛用者カード ◆AC電源コード ◆高低自在イス

補足

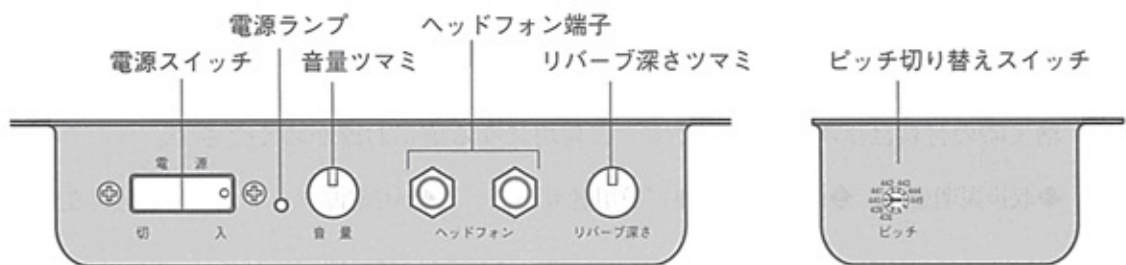
- ・ 納入の際には、必ず保証書の「販売店名、お買い上げ日(納入日)」などの記入を確かめて、販売店よりお受け取りください。
- ・ AC電源コードは、納入時に接続させていただいております。

各部の名前

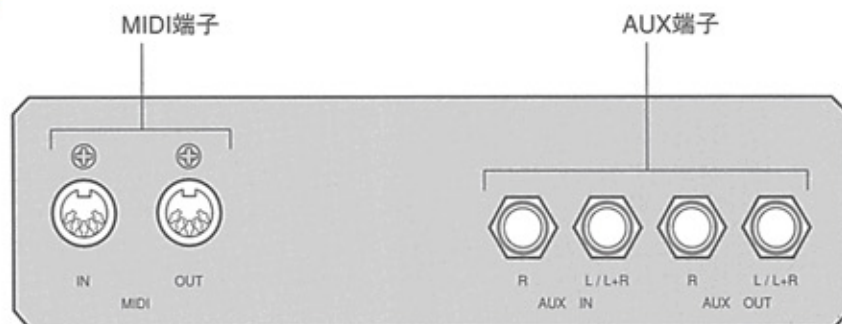


※ 上図はDUP-10です。DUP-10Bの外観は多少異なります。

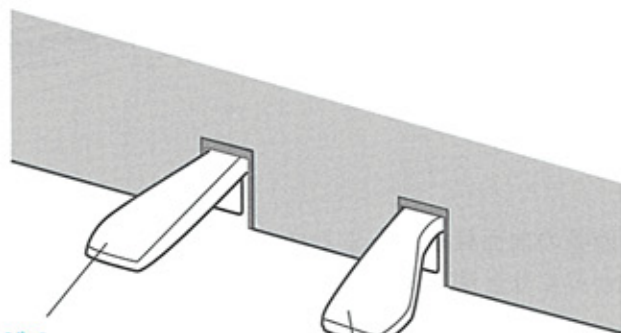
スイッチボックス



端子部



ペダルのはたらき



ソフトペダル

このペダルを踏むと、音の響きが柔らかくなります。

ダンパーペダル

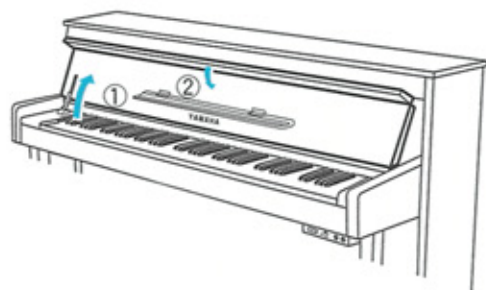
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても、音を長く響かせることができます。

ご使用前の準備

鍵盤蓋について

開けるとき

- ①両手を添えて、ゆっくりと起こします。
- ②鍵盤蓋の前面板を、下向きに倒します。



閉めるとき

- ①倒しておいた鍵盤蓋の前面板を、止まるまで上向きに戻します。
- ②両手を添えて、ゆっくりと閉めます。

補足

- ・ 鍵盤蓋を開いたら、前面板は下向きに倒してご使用ください。上向きのまま使用すると、音がこもることがあります。
- ・ ソフトランディング機構鍵盤蓋を採用しており、手を離してもゆっくりと閉まるようになっています。

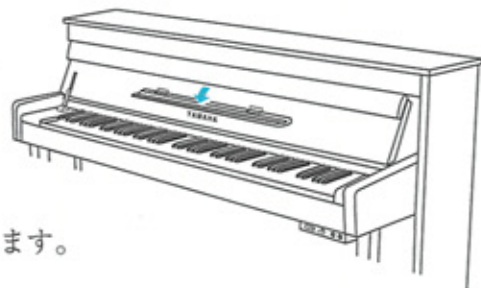
⚠ 注意

- ・ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉めてください。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行き、また自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにしてください。鍵盤蓋と口棒の間に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

譜面板について

立てるとき

譜面板を、止まるまで下向きに開きます。

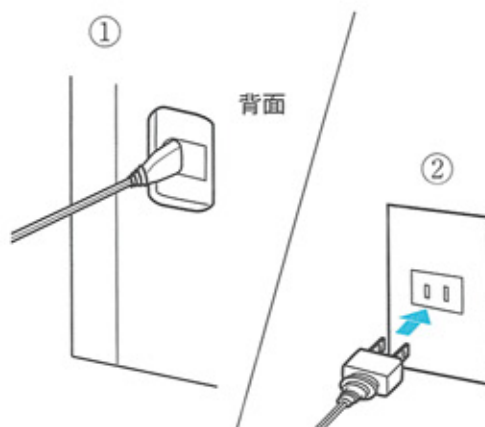


倒すとき

開いておいた譜面板を、止まるまで上向きに戻します。

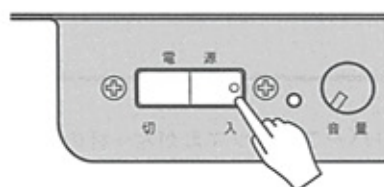
1 電源コードを接続する

- ①本機背面にあるACインレット端子に、電源プラグが接続されていることを確認します。
- ②家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。



2 電源を入れる

- 電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れます。
⇒ 電源ランプが点灯します。



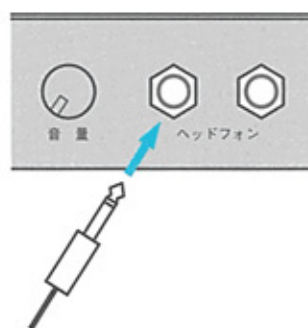
3 音量を調節する

- 音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に演奏して音量を決めます。



ヘッドフォンを使う場合

- ①ヘッドフォン(別売)を、ヘッドフォン端子に接続します。
- ②音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に演奏して音量を決めます。



補足

- ・ヘッドフォンを接続すると、本機のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。ただし、鍵盤をたたく音は消せません。
- ・ヘッドフォンは2つまで接続できますので、演奏をもう一人のかたが確認したり、連弾することも可能です。2つ接続する場合は、同じ仕様のものご用意ください。違う仕様のものですと、音量、音質が異なって聞こえる場合があります。(推奨品：HPE-170)

リバーブをかける

リバーブとは、音に残響を付け加えて音の響きを豊かにする効果です。

リバーブの深さを調節する

リバーブ深さつまみを回すことにより、リバーブの深さ(かかり具合)を調節することができます。

左へ回すと：
響きが浅く(弱く)なる



右へ回すと：
響きが深く(強く)なる

補足

・ リバーブ深さつまみが左一杯の状態になっていると、リバーブはかかりません。

リバーブの種類を切り替える

通常の方法で電源を入れるとホール1のリバーブが選ばれますが、下記のように黒鍵を押しながら電源を入れることにより、リバーブの種類を切り替えることができます。

ルーム : $F\sharp_2$ を押しながら電源を入れる

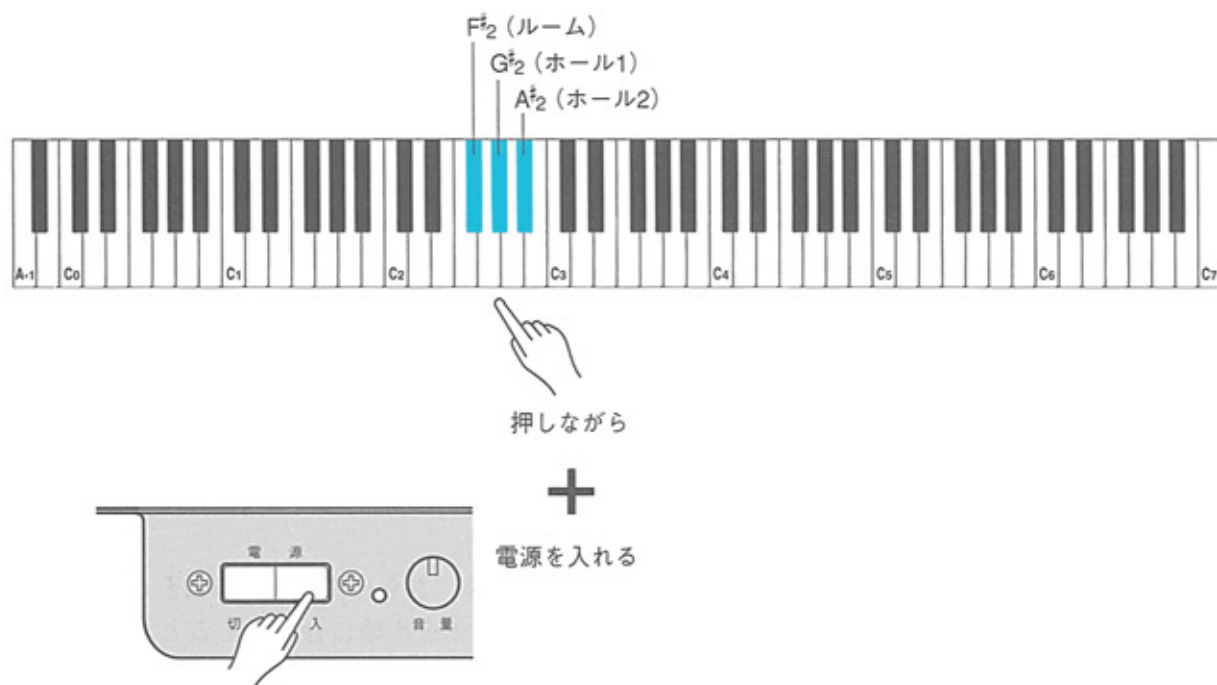
響きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。

ホール1 : $G\sharp_2$ を押しながら電源を入れる

小さなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。

ホール2 : $A\sharp_2$ を押しながら電源を入れる

大きなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。



補足

- ・ リバーブの種類の設定は電源を切ると解除され、通常の方法で電源を入れるとホール1に戻ります。

ピッチを合わせる

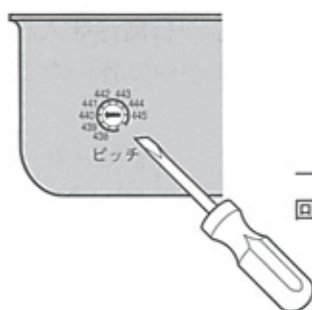
ピッチを切り替える

本機のスイッチボックス側面部には、ピッチ切り替えスイッチがあり、スイッチを回すことによりピッチ(音程)を切り替えることができます。

一般的に標準のピッチはA₃=440ヘルツですが、声楽やオーケストラの演奏では曲によって、あえてピッチを変えることがあります。ピッチを440ヘルツよりも上げると明るく冴えた感じの音になり、440ヘルツよりも下げると暗い感じになります。

あらかじめピッチが数値で分かっている場合は、ピッチ切り替えスイッチを使用してピッチを合わせてください。

スイッチボックス側面部



-(マイナス)ドライバーで、回して設定します。

補足

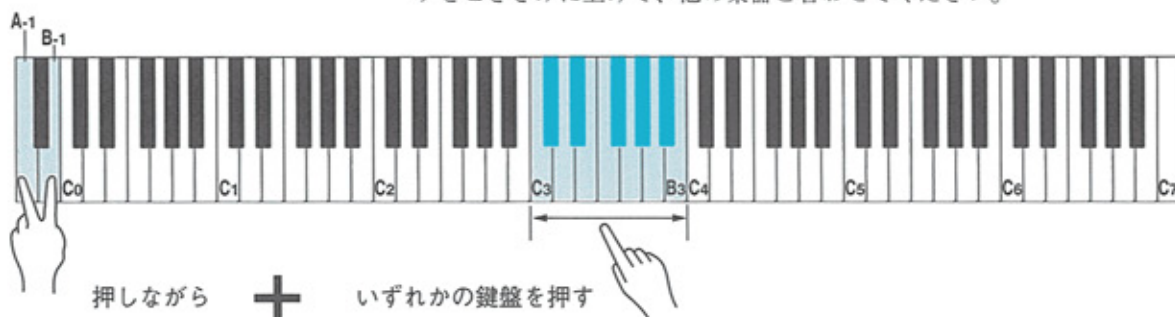
- ・ピッチは438ヘルツ～445ヘルツの範囲内で、1ヘルツきざみの設定ができます。(1ヘルツ=約4セント)
- ・工場出荷時のピッチは、A₃=440ヘルツになっています。

ピッチを微調整する

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチ(音程)を、さらに微調整することができます。この機能を使うことにより、他の楽器とピッチを正確に合わせることができます。合奏のときなどに楽器間でピッチがずれていると、両者の間で音にうねりが生じます。本機と他の楽器の両方を鳴らしながら、うねりがなくなる高さに調整してください。

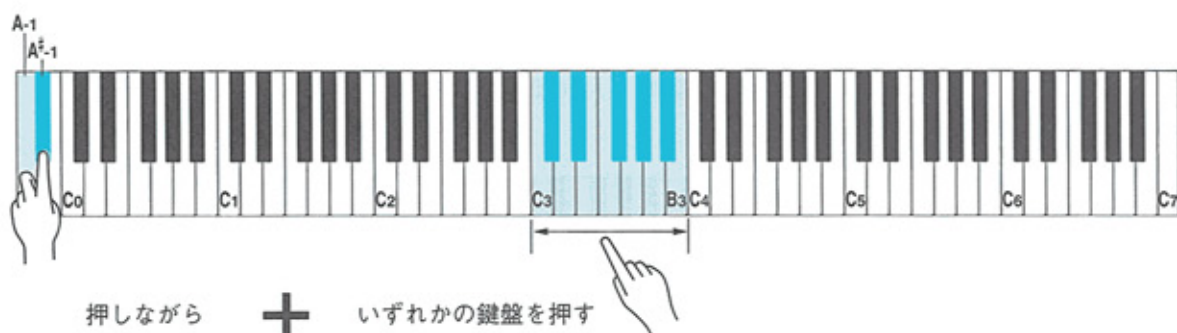
ピッチを上げるとき

- ①A₋₁とB₋₁の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ②C₃～B₃いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが上がります。音を聴きながらピッチをこきざみに上げて、他の楽器と合わせてください。

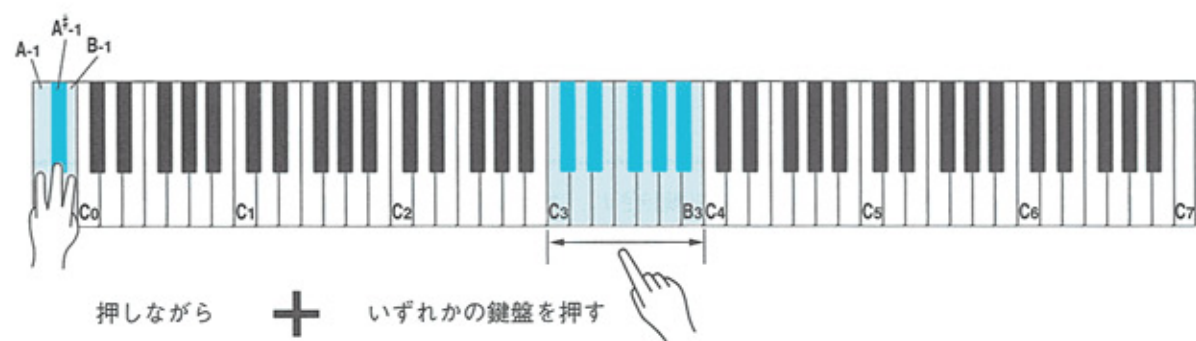


ピッチを下げるとき

- ① A₋₁とA[♯]₋₁の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しなが
ら、
- ② C₃~B₃いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが下がります。音を聴きながらピ
ッチをこきざみに下げて、他の楽器と合わせてください。

ピッチ切り替えスイッチで
設定したピッチに戻るとき

- ① A₋₁とA[♯]₋₁とB₋₁の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を
同時に押しなが
ら、
- ② C₃~B₃いずれかの鍵盤を1回押します。



補足

- ・ ピッチは±約50セントの範囲内で、約1.2セントきざみの設定ができます。(100セント=半音)
- ・ 鍵盤で設定したピッチは電源を切ると解除され、電源を入ると、ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻ります。

同時発音数を切り替える

本機の最大同時発音数は、通常ステレオ32音です。連弾やペダリングを多用する曲を演奏するなど、同時に33音以上を必要とする場合は、最大同時発音数をステレオ64音に切り替えることができます。

64音に切り替えるとき ①C₃の鍵盤を押しながら、

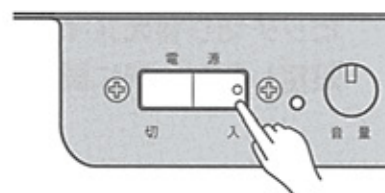
②電源を入れます。



押しながら



電源を入れる



補足

- ・ 同時発音数の設定は電源を切ると解除され、次回通常の方法で電源を入れると、最大同時発音数はステレオ32音に戻ります。

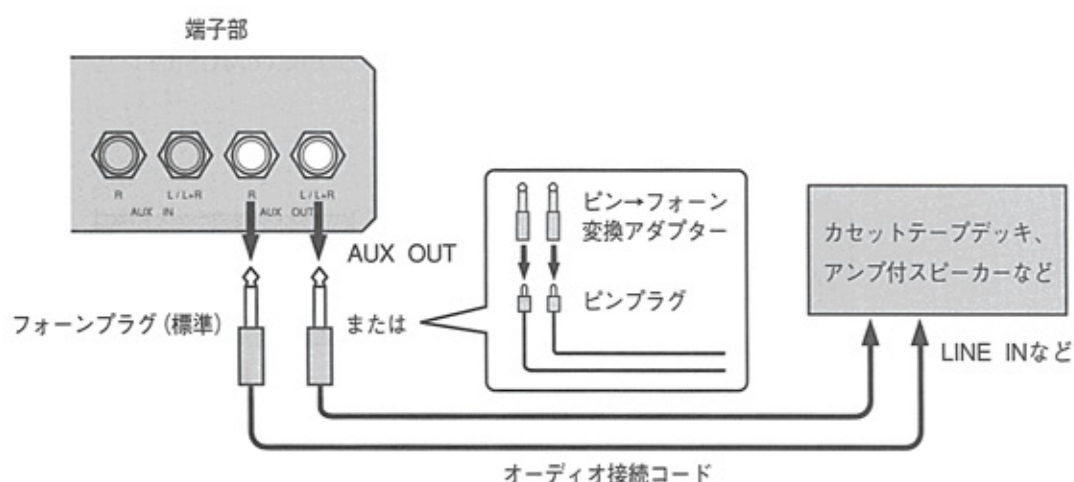
他の機器と接続する

本機背面にあるAUX端子を使って、他の機器と接続できます。ここでは、AUX端子の使用例をご紹介します。

AUX出力(AUX OUT)端子の使用例

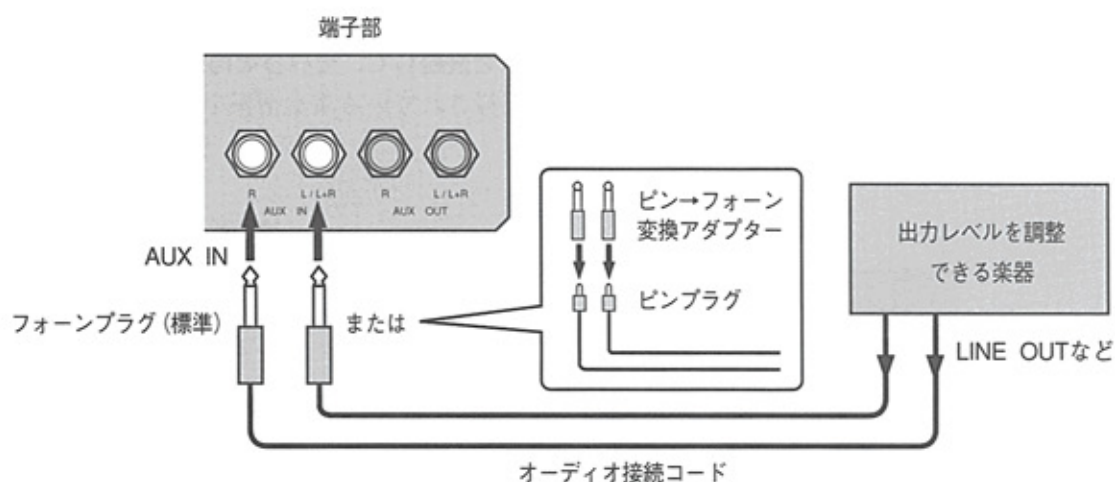
カセットテープデッキに接続すると：本機での演奏を録音できます。

アンプ付スピーカーに接続すると：アンプ付スピーカーからも音を出せます。



AUX入力(AUX IN)端子の使用例

他の楽器を接続すると：他の楽器の演奏音を、本機のスピーカーで鳴らすことができます。



⚠ 注意

- 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。

補足

- オーディオ接続コードおよび変換アダプターは、抵抗のないものをお使いください。
- AUX入力端子より入力された音は、本機では音量調節できません。相手側のボリュームで音量調節してください。

他のMIDI機器と接続する

本機背面にあるMIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。ここでは、MIDI端子の使用例をご紹介します。

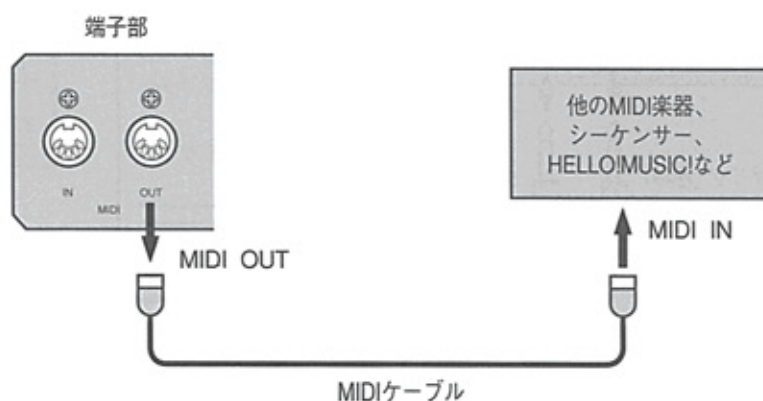
MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例

他のMIDI楽器に接続すると：

本機での演奏を、他のMIDI楽器の音色で鳴らすことができます。

シーケンサーに接続すると：

本機での演奏情報を、シーケンサーやヤマハ・HELLO!MUSIC!シリーズに記録できます。



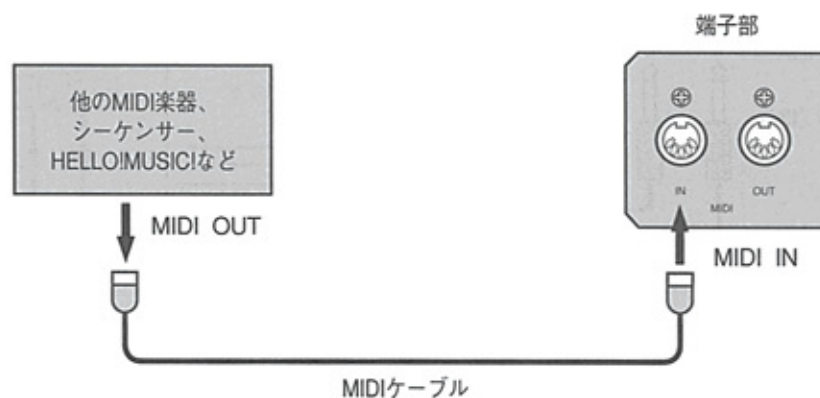
MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例

他のMIDI楽器を接続すると：

他のMIDI楽器の演奏を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。

シーケンサーやヤマハ・HELLO!MUSIC!シリーズを接続して、それらを再生すると：

シーケンサーやHELLO!MUSIC!に記録されている演奏情報を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。



補足

- ・ 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。
- ・ MIDI端子を装備した機器に限り、接続が可能です。MIDIは、MIDI機器同士の連携プレイを可能にするメーカーを超えた世界共通の規格です。

MIDI受信チャンネルの切り替え

ピッチ切り替えスイッチで、MIDI受信チャンネルを切り替えることができます。通常MIDIの送受信はチャンネル1に設定されていますが、ピッチ切り替えスイッチを438ヘルツの1つ右にある目盛に合わせると、チャンネル1+2の受信が可能になります。

スイッチボックス側面部



ピッチ

—(マイナス)ドライバーで回して、438の1つ右の目盛に設定します。

補足

- ・ MIDIの受信をチャンネル1+2に設定した場合、ピッチは440ヘルツに固定されます。ただし、鍵盤による微調整は可能です。(→12ページ)
- ・ 右手パートと左手パートを別々のチャンネルに設定してある曲を再生するときなどに設定します。

試聴曲の再生

本機には試聴用の曲が8曲入っており、再生させることができます。

- ①B₆とC₇の鍵盤(右端の白鍵2つ)を同時に押しなが
ら、電源を入れます。

補足

・電源を入れて約3秒後に「カチッ」という音が聞こえたら、すぐに鍵盤から指を離します。

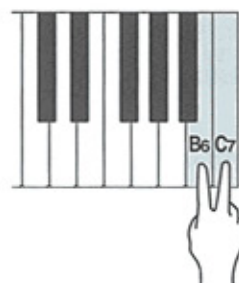
全曲リピートになり、1曲目から8曲目までが繰り返して再生されます。

- ②操作①の後に1曲だけ再生させるときは、E₆～B₆いずれかの鍵盤を押します。押した鍵盤の曲が再生され、終わると停止します。再度全曲リピートさせるときは、C₇を押します。また、E₆よりも左側の鍵盤を押すと、再生が停止します。

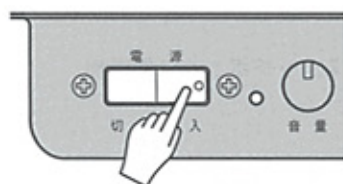
- ③試聴曲の再生モードを解除するときは、電源を入れ直します。

補足

・電源を切るまでは、再生が停止していても再生モードになっているため、該当する鍵盤を押した時点で再生が始まってしまいます。

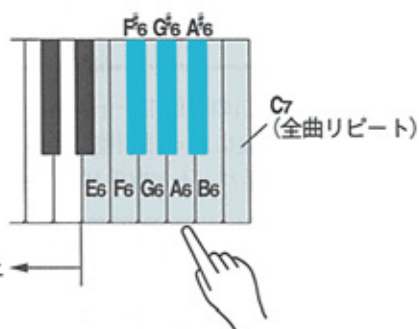


押しながら



+

電源を
入れる



試聴曲リスト

曲番号(鍵盤)	曲名/作曲者名
1曲目(B ₆ 鍵盤)	スケルツォ第2番/ショパン
2曲目(A [♯] ₆ 鍵盤)	I Hear A Rhapsody/George Frajos, Jack Baker, Dick Gasparre
3曲目(A ₆ 鍵盤)	前奏曲集第1巻より、「亜麻色の髪の乙女」/ドビュッシー
4曲目(G [♯] ₆ 鍵盤)	Somewhere Out There/Cynthia Weil, James Horner, Barry Mann
5曲目(G ₆ 鍵盤)	ピアノソナタ第12番第3楽章/モーツァルト
6曲目(F [♯] ₆ 鍵盤)	When I Fall in Love/Albert Selden
7曲目(F ₆ 鍵盤)	夜想曲(ノクターン)第5番/ショパン
8曲目(E ₆ 鍵盤)	Easy Winners/Scott Joplin

お手入れ

- ◆表面に付いたホコリはピアノ用の羽毛で払うか、または柔らかい布で軽く拭き取ります。汚れは、柔らかい布に水をしみ込ませ固くしぼって拭き取った後、乾いた布で乾拭きします。
- ◆汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。
- ◆鍵盤の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー(別売)のご使用をお勧めします。

DUP-10をご購入のお客様 (黒艶消し塗装)	DUP-10Bをご購入のお客様 (黒鏡面艶出し塗装)
<ul style="list-style-type: none">・強く拭いたり拭きすぎると、塗装に悪い影響を与えることがありますのでご注意ください。・艶消し塗装のため、ピアノユニコンは使用しないでください。	<ul style="list-style-type: none">・艶出しをするときは、ピアノユニコン(別売)のご使用をお勧めします。

音のエチケット

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

お引っ越しのときには

必ず専門業者または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

おもな仕様

- ◆ 鍵盤 …………… 88鍵(A₁~C₇・7オクターブ1/4)
- ◆ アクション …………… アップライトピアノアクション方式
- ◆ 音源方式 …………… AWM2音源
- ◆ 音色 …………… ピアノ
- ◆ センサーユニット …………… 連続検出キーセンサー、連続検出ラウドペダルセンサー、ON/OFFソフトペダルセンサー
- ◆ 最大同時発音数 …………… ステレオサンプリング32音(ステレオ64音)
- ◆ コントロール・機能 …………… 電源スイッチ(ランプ付)、音量ツマミ
リバーブタイプ切り替え(ルーム、ホール1、ホール2)
リバーブ深さツマミ、ピッチ切り替えスイッチ
ピッチコントロール、ダンパーの共鳴効果
- ◆ ペダル …………… ソフトペダル、ダンパーペダル
- ◆ 付属端子 …………… ヘッドフォン端子×2、AUX端子(IN、OUT)
MIDI端子(IN、OUT)、ACインレット端子
- ◆ アンプ …………… 30W×2
- ◆ スピーカー …………… 16cmウーハー×2、5cmツイーター×2
- ◆ 定格電源 …………… AC100V、50/60Hz
- ◆ 消費電力 …………… 50W
- ◆ 外装仕上げ …………… DUP-10：黒艶消し塗装、DUP-10B：黒鏡面艶出し塗装
- ◆ 寸法 …………… 間口：149cm、奥行き50cm、高さ102cm
- ◆ 重量 …………… 100kg
- ◆ 付属品 …………… 取扱説明書、保証書、ご愛用者カード、AC電源コード、高低自在イス

※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

おかしいなと思ったら

おかしいなと思ったときは、まずこの表に沿って調べてください。

現象	原因	解決法
本機の電源が入らない。	電源プラグが、コンセントに差し込まれていない。	家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。 →9ページ
	電源プラグが、本機側に差し込まれていない。	本機背面のACインレット端子に、確実に差し込んでください。 →9ページ
	電源スイッチが切れている。	電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れてください。 →9ページ
電源スイッチを入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	—	電気が流れたためです。ご心配いりません。
まったく音が出ない。	音量ツマミが最小になっている。	音量ツマミを右に回して、音量を上げてください。 →9ページ
	ヘッドフォンを接続している。	ヘッドフォンのプラグを抜くか、またはヘッドフォンで聴いてください。 →9ページ
演奏時に「カタカタ」と音がする。	鍵盤をたたく音です。	故障ではありません。
リバーブがかからない。	リバーブ深さツマミが、左一杯の状態になっている。	リバーブ深さツマミを右に回して、適度な深さに設定してください。 →10ページ
音が残りすぎる。 (残響がかかりすぎる。)	リバーブ深さツマミの設定が深すぎる。	リバーブ深さツマミを左に回して、適度な深さに設定してください。 →10ページ
他の楽器とピッチが合わない。	ピッチ切り替えスイッチが他のピッチ位置になっている。	ピッチ切り替えスイッチのピッチ位置を、他の楽器のピッチに合わせてください。 →12ページ
	本機で可変できるピッチの範囲を越えている。	他の楽器側でピッチを変えてください。 →12ページ
AUX端子を使って接続したが、両機器間の音量のバランスがとれない。	片方の機器のボリューム(音量ツマミ等)だけで、音量を調整しようとしている。	両機器のボリューム(音量ツマミ等)を操作して、音量バランスをとってください。
他のMIDI機器と、情報をやりとりできない。	MIDIケーブルの接続が不完全。	両機器のMIDI OUTとMIDI IN端子間を、MIDIケーブルで確実に接続してください。 →16ページ
	本機のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルと合っていない。	他の機器のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルを、チャンネル1(または1+2)にしてください。 →17ページ

DUP-10/10B MIDIインプリメンテーションチャート

Date : 1998. 9. 1
Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源オン時 設定可能	1 ×	1, 1+2 1, 1+2	
モード	電源オン時 メッセージ 代用	3 × *****	3 3, 4(m=1) *1 ×	
ノート ナンバー	音域	21~108 *****	21~108 21~108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH, v=1~127 × 9nH, v=0	○ v=1~127 ○	
アフター タッチ	キー毎 チャンネル別	○ ×	○ ×	*2
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 10 11 64 67	× × × ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ボリューム パン エクスプレッション ダンパーペダル ソフト(シフト)ペダル
プログラム チェンジ	: 設定可能範囲	× *****	×	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	オール・サウンド・オフ リセット・オール・コントローラ ローカル・ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × × × ○ ×	○ (120, 126, 127) × ○ ○ (123~125) ○ ×	
備考	*1 mは常に“1”とみなす。 *2 打鍵後のキーを押さえ込む圧力で連続的に“キー毎のアフタータッチ”を出力するのではなく、各鍵盤の位置等を独自の付加情報として送信・受信する。			

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ ○: あり
 モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ ×: なし

オプションのご案内と接続時のご注意

アンサンブル・ミュージック・レコーダー EMR1

¥88,000(税抜き)

- 電子アップライトピアノDUP-10/10Bと接続して、ご自分の演奏を手軽に録音・再生できます。
- XGフォーマット音源内蔵、700種類もの豊富な音色を楽しめます。
- SMF、E-seq対応、さまざまなソフトを楽しめます。
- フロッピーディスク(2DD、2HD対応)に演奏を記録できます。
- TO HOST端子付きなので、パソコンとケーブル1本で直接つなげます。



補足

・DUP-10/10BにEMR1を接続するときは、EMR1の「ピアノタイプ」を **サイレントSN/G.タッチ** にセットしてください。詳細は、EMR1の取扱説明書をご覧ください。

保証とアフターサービス

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1年です(現金、ローン、月賦などによる区別はございません)。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

◆ 保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

◆ 保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定の通りご購入の日から向こう1年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種別の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

◆ 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは弊社にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを、責任をもって行うよう手続きいたします。

◆ 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハサービス網までお問い合わせください。なお、補修用性能部品の保有期間は、最低8年となっています。

消耗部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ
リレー類、接続端子、鍵盤機構部品など

ヤマハサービス網

本機の保守点検等のサービスに関するお問い合わせは、お買い上げいただきましたヤマハ楽器特約店の他、下記ヤマハサービス網にてお受けいたしております。

ヤマハ支店

北海道支店	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター内) ☎ 011(512)6114
仙台支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル ☎ 022(222)6144
東京支店	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 ☎ 03(5488)5442
名古屋支店	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 ☎ 052(201)5145
大阪支店	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザ東館 ☎ 06(252)7541
九州支店	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ☎ 092(472)2152

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受け付け窓口)

北海道サービスセンター	〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 ☎ 011(512)6108
仙台サービスセンター	〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F ☎ 022(236)0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025 川崎市中原区木月1184 ☎ 044(434)3100
浜松サービスステーション	〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 ☎ 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F ☎ 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 ☎ 06(877)5262
四国サービスステーション	〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ☎ 087(822)3045
広島サービスセンター	〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14 ☎ 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ☎ 092(472)2134
本社/カスタマーサービス部	〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 ☎ 053(465)1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

ピアノ・インフォメーションセンター

〒430-8650 浜松市中沢町10-1
(営業時間 月～金 10:00～12:00 / 13:00～17:00)
フリーダイヤル ☎ 0120-084808

ヤマハ株式会社

ピアノ事業部 国内営業部

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
☎ 053(460)2181